

## 1 研究主題

豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の推進  
～多様な道徳授業の試みと教育活動全体で取り組む道徳教育の推進～

## 2 研究の概要

十日町市は平成23年度から小中一貫教育のモデル中学校区を指定し、3年間の試行を経て来年度から全中学校区で本格実施される。道徳教育も小中一貫教育の考え方に基づき23、24年度の2年間は、学校の教育活動全体で取り組む道徳教育を中心に据えて研究を推進してきた。平成20年の学習指導要領改訂では、道徳の時間の「要」としての役割が明確化された。また、道徳の時間について「言語活動」「情報モラル」など5つにわたる事項が明示され、さらに道徳の時間の授業公開が明記されている。このように、道徳の時間の充実、質的な授業改善が望まれている状況から、今年度は多様な道徳授業のあり方について研究することとし、標記副題を設定した。

そして、具体的な実践に移すために、教育課程研究集会（道徳）の伝達講習並びに先進的な授業実践を行っている部員による模擬授業を実施した。

## 3 研究の実際

### (1) 教育課程伝達講習の実施・・・県教委主催の伝達講習参加部員より

道徳の時間の充実に向け取組が求められること、道徳の教育課程実施上の課題の2点に重点化して伝達及び質疑。

### (2) 模擬授業を取り入れた実践発表：「PISA型の道徳授業」の実践部員より

#### ① PISA型の道徳授業を体験する

参加者が子どもになって、PISA型の道徳授業の流れを体験する。

ビーチクリーン作戦はいつやればいい？（自作資料）を使用し授業体験する。

PISAのモラルを問う読解力問題を考えてみる。

#### ② PISA型の道徳授業のねらい、有効性と課題について知る。

\*ねらい：道徳的判断力と養う。リーディングリテラシーを用いながら道徳的に判断し、自分の考えを作る力を育てる。

\*有効性：異なった考えの公平な比較検討。どの子も参加しやすい学習環境。

論理的思考の促し。話し合いの調整が可能。道徳性の評価がしやすい。

\*課題：2つの異なる意見文の作成のポイントを押さえること。

#### ③資料（意見文）作成演習

「泣いた赤おに」を使い、小学校下学年、上学年、中学校向きの意見文を考える。

## 4 成果と課題

参加者からは、実際の授業に使える新たな指導法を学ぶことができ、2学期に実践したいという感想が多く聞かれた。道徳教育の「要」としての授業のあり方を模索している部員のニーズに応えることができたと考える。課題としては2点、①道徳の時間の教科化の動き等の道徳教育最前線の情報提供と、より質の高い研修の場を設定できるか。②部員の主体的な取組を促す実践レポートを集約・活用できるか、である。中越道徳教育研究会との連携や近隣地域の道徳教育研究指定校（六日町小等）の授業公開や研修会への積極的参加を促すとともに、当部会においても授業公開を伴う研修を試みていきたい。

